

第4学年 国語科学習指導案

日 時 平成21年11月12日(木)

時 間	4 校 時	5 校 時
学 級	4年B組(場所:教室)	4年A組(場所:教室)
児 童	男子11名 女子18名 計 29名	男子12名 女子16名 計 28名
指導者	教 諭 関口 一二	教 諭 北田 明美

育てたい主となる能力(基礎・基本)

目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと。
(読むこと イ)

- 1 単元名 材料の選び方を考えよう
教材名 「アップとルーズで伝える」 (光村図書4年下 はばたき)
「めだか」 (教育出版3年上 ひろがる言葉)

2 児童観

児童は、3年生までに、多くの説明文が「初め」「中」「終わり」の大きな3つのまとまりで構成されていることを学習してきた。4年生の『『かむ』ことの手』および定着教材「合図としるし」ではさらに、「中」の部分もいくつかの意味段落に分けられることを知り、それらの意味段落を文章構成図に表すことを学習してきた。その中で、意味段落に分けるためには形式段落の要点や接続語などに着目すればよいという「読みの方法」を理解し、その方法を使って簡単な文章であれば自力で意味段落に分けられる児童も多くなってきている。

しかし、文章構成図については、全体で話し合いながらいくつかの形式段落をまとめる形で完成させる経験はしてきたものの、段落相互の関係については深くふれてきていない。また、文章構成図を書く学習に留まり、その活動が文章全体の構成をつかむことに役立つという実感を持ったものには至っていないと思われる。

3 教材観

教科書教材「アップとルーズで伝える」は、わたしたちが最もよく目にしているメディアであるテレビの映像技法を中心に述べたものである。児童にも身近に感じられる内容であり、実際に確かめることも容易である。また、アップとルーズについて対比的に分かりやすく述べられており、段落構成、キーセンテンスやキーワード、要約などの学習にも適していて、読む力を育む教材として適した教材といえる。

定着教材「めだか」は、児童もよく知っているメダカの身の守り方について書かれた説明文である。「中」の部分が、「アップとルーズで伝える」と同じように対比を使って説明しているまとまりと、並列の関係で述べられているまとまりの二つに大きく分けられる。前時までにまとめた要点や接続語などを手がかりにして、比較的容易にそれぞれの形式段落の関係をとらえることができると考え、文章構成図を書く力を定着させる教材として選んだ。「対比」の関係と「並列」の関係を比べることによって、教科書教材で学習した「対比」についての理解がより深まり、段落相互の関係を意識させるのに適した教材であると考えた。

4 指導にあたって

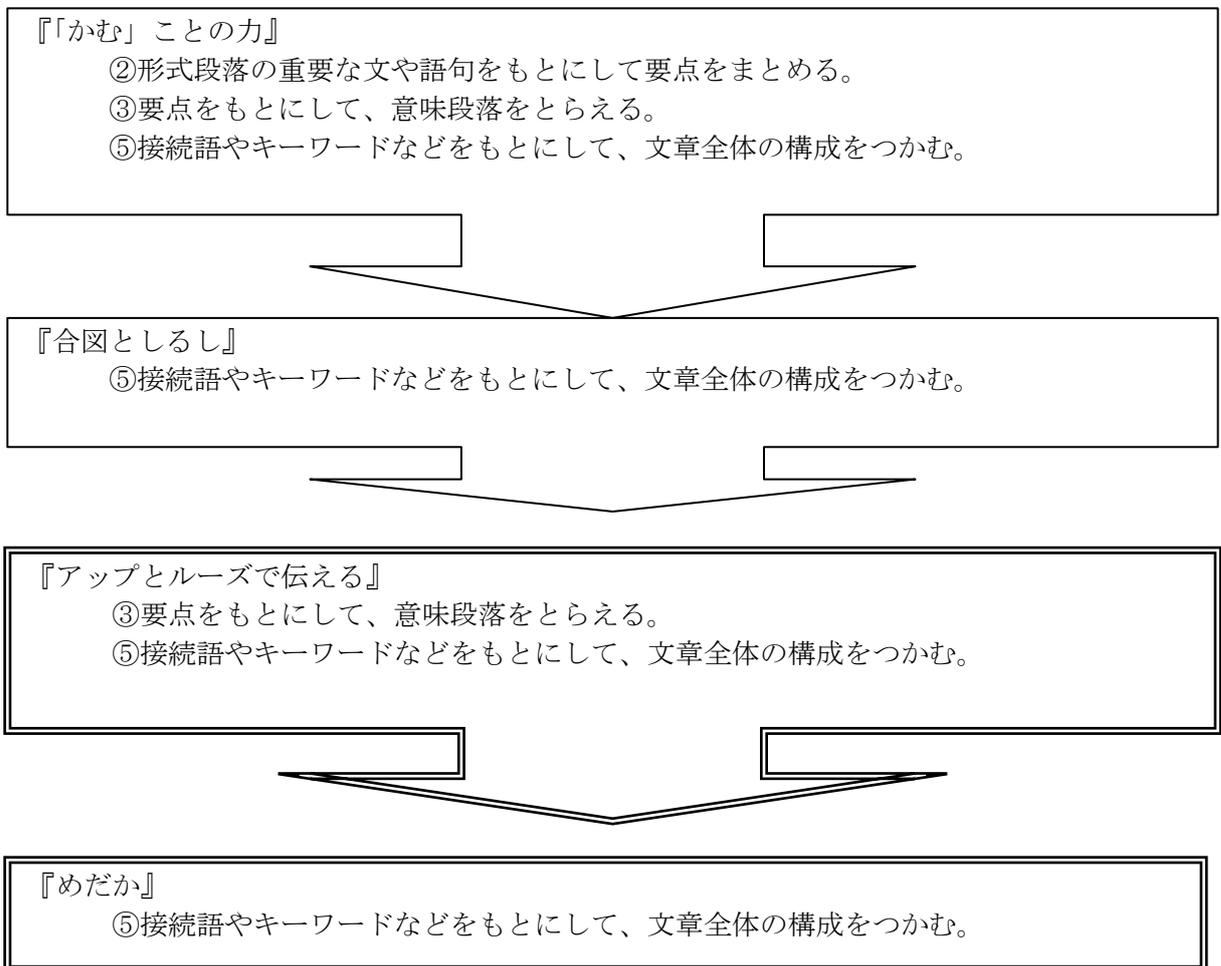
教科書教材では、写真と文章を対応させて読み進めていく。特に対比的な表現をしている部分については、前教材「文と文のつながり」の学習を生かしながら接続語に着目させ、段落の関係をつかませたい。本時の学習では、「中」の文章構成図を4つのパターンの中から選ばせ、その理由を考えさせる活動をすることによって、段落と段落との対比関係や対比という表現のよさを理解させ、それらを含んだ文章全体の構成をとらえることをねらう。文章全体の構成をとらえるにあたっては、「初め」「中」「終

わり」に分けた形式にあてはめていくことで時間短縮を図るとともに、説明文の基本的な3つのまとまりの役割についても再確認させたい。

定着教材では、これまで学んできた読みの方法を使い、まず意味段落のまとまりという観点からふさわしい文章構成図を選択させる。さらに、それぞれのまとまりの中での段落の関係にも目を向けさせ、教科書で学習した対比の関係とはちがった関係があることに気づかせることによって、段落同士の関係について様々な形があることを理解させたい。このことが、自身の書く活動へ生かされることを期待するものである。文章全体の構成をつかむ学習については、教科書教材で使ったものと同じ様式のワークシートを用意し、既習の学習用語や意味段落の小見出しなどを使いながら自力で全体の構成を表現させることによって、他の文章でもできたという自信につなげたい。また、この単元は、4年生の説明文のまとめにもあたるので、文章構成図ができて終わりではなく、文章構成図を書くことによって全体の構成がとらえられるというよさを実感できるようにしたい。

第2次では、「アップとルーズで伝える」の内容を踏まえて、情報の収集から発信までの活動を行う。特に、集めたさまざまな情報の中から、相手や目的に合うものを選ぶことに焦点を当てている。単元末のコラム「選んで伝える」も参考にしながら情報選択の大切さを学ばせたい。

5 単元の系統



6 単元の指導目標

書く力	読む力	言語の力
◎取材した事柄を相手に応じて分かりやすく書いて知らせる。 ◎書こうとする題材に必要な事柄を集める。 ○見出しを立てながら書く。	◎それぞれの段落が全体の中でどのような役割を果たしているかを考えながら読む。	○文章全体の中での、それぞれの段落の役割を理解する。

7 単元の指導計画と評価規準（全17時間 本時 B組5／17時 A組7／17時）

次	時	主な学習活動	評価規準
1	1	<ul style="list-style-type: none"> 教材文を通読し、文章の内容を大きくつかむ。 新出漢字の学習をする。 難語句の意味調べをする。 	<p>(関) 何についての文章かを大きくつかみ、今後読み進めることに意欲をもっている。(観察・発言)</p> <p>(言) 新出漢字について理解している。(漢字スキル)</p> <p>(言) 国語辞典を使い適切な意味を選んで書いている。(ノート)</p>
	2 ～ 4	<ul style="list-style-type: none"> 写真と文章の関係を考えながら、各形式段落を読む。 	<p>(読) 写真と対応させながら文章を読み、段落相互の関係をつかんで、「アップ」と「ルーズ」という言葉の意味、アップとルーズそれぞれの長所と短所、アップとルーズが目的に応じて使い分けられていることを読み取っている。(ノート)</p>
	5 B組 本時	<ul style="list-style-type: none"> 段落の役割をとらえて文章構成図を書き、文章全体の構成をつかむ。 	<p>(読) 段落相互の関係を理解し、文章構成図を書き、文章全体の構成をつかんでいる。(ノート)</p>
	6	<ul style="list-style-type: none"> 定着教材「めだか」を読み、各段落の要点をまとめる。 	<p>(読) 形式段落の要点を適切にまとめている。(ノート)</p>
	7 A組 本時	<ul style="list-style-type: none"> 文章構成図をもとに、文章全体の構成をつかむ。 	<p>(読) 段落相互の関係を理解して、文章構成図を選び、文章全体の構成をつかんでいる。(ノート・ワークシート)</p>
2	8	<ul style="list-style-type: none"> 「四年三組から発信します」を読み、活動の見通しをもつ。 	<p>(関) アップやルーズで撮った写真を使って、自分たちが知らせたいことや、相手が知りたいことをまとめる活動に意欲をもっている。(観察・発言)</p>
	9	<ul style="list-style-type: none"> 教科書作例の工夫に気づき、これからの学習計画を立てる。 	<p>(読) 教科書作例の工夫に気づくことができる。(発言・ノート)</p>
	10	<ul style="list-style-type: none"> 題材について話し合い、自分たちのまとめ方のイメージをもつ。 	<p>(関) グループ毎の活動に積極的に加わり、何をどのように伝えるのか、自分の考えをもっている。(観察・発言)</p>
	11 ～ 16	<ul style="list-style-type: none"> とり上げる題材を決めて取材をし、グループ毎に新聞をつくる。 	<p>(書) 相手や意図に応じて写真や材料を選び、わかりやすくまとめている。(作品)</p>
3	17	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動全体を振り返り、相手や意図に応じた情報の選択について、自分の考えをもつ。 	<p>(関) 自分の取り組みについて、教材文で述べられたことを視点に振り返り、自分の考えをもっている。(発言・観察)</p>

8 本時の指導計画 (B組 5/17時)

(1) 本時の目標

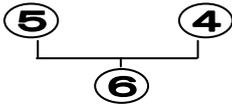
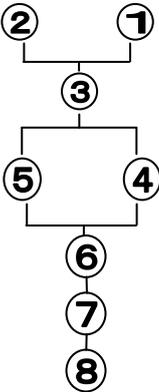
段落の役割をとらえ、文章全体の構成をつかむことができる。

(2) 本時の具体の評価規準

A	B	Cの児童への支援
書かれている内容や接続語・指示語などから文章構成図を考え説明することができる。	書かれている内容や接続語・指示語などから文章構成図を考えすることができる。	形式段落⑥の「このように」がどの段落の内容をまとめているか考えさせ、「中」の段落の文章構成図を考えさせる。

(3) 本時の展開

難	学習活動	○主な発問 ・予想される児童の反応	指導上の留意点
見 通 す	1 既習事項を想起する。	○段落のつながりを図に表したものを何と言いましたか。 ・文章構成図と言いました。	・一学期学習した『「かむこと」の力』の文章構成図を示し学習内容をイメージさせる。
	2 学習課題を確認する。		
5 分	「アップとルーズで伝える」の文章構成図を考えよう。		
	3 ④～⑥段落を音読する。 4 見通しを持つ。	○どんな構成図が考えられますか。 	・段落のつながりを考えるときは接続語や指示語、段落初めの言葉に着目するとよいことを想起させる。
深 め る	5 「中」の文章構成図を選び、そのわけを考える。	○選んだ文章構成図と選んだわけをノートに書きましょう。	・作業が進められない児童には段落⑥の「このように」がどの段落の内容をまとめているか考えさせる。
	6 自分の考えを発表する。	○選んだ文章構成図と選んだわけを発表してください。 ・「このように」という言葉が④⑤をまとめているから④だと思う。 ・④はアップのことが、⑤はルーズのことが⑥はアップとルーズのことが書いてあるから④だと思う。 ・④と⑤の段落はアップとルーズのことを並べて書いてあるから④だと	・段落④と⑤にはそれぞれ、伝えられること、伝えられないことが、同じ順番に書かれてあることに注目させる。 ・⑥段落の「このように」は、④⑤段落をまとめていることを確認する。

<p>27分</p>	<p>7 「初め」「中」「終わり」のつながりをお確かめながら、全体の文章構成図を完成させる。</p> <p>8 課題についてまとめる。</p>	<p>思う。</p> <p>○「中」の文章構成図を書きましょう。</p>  <p>○④⑤段落のように段落を並べた段落構成になっているところがないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①②段落も④⑤段落のように並べて書いてある。 ・①②段落を③段落でまとめている。 <p>○⑦段落は、どの段落とつながっているでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「写真にも」と書いてあるから①～⑥のテレビ画面の付け足しをしているので⑥とつながっている。 <p>○⑧段落は、他の段落とどのような関係でしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①～⑦のまとめ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「対比」を文章構成図でイメージさせながら表現の工夫をまとめる。 ・「初め」のまとまりも「中」と同じ文章構成になっていることを確認する。 ・「終わり」の文章構成図を書き足して全体の文章構成図を完成させる。
<p>13</p>	<p>9 文章構成図をもとに「アップとルーズで伝える」の構成についてまとめる。</p>	<p>○大きなまとまりに大見出しをつけて文全体の内容をまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「初め」はアップとルーズとのちがいは何か。 ・「中」はアップとルーズの長所と短所。 ・「終わり」は、アップかルーズかを選んで伝える。 ・初めの部分でアップとルーズとのち 	<ul style="list-style-type: none"> ・できた文章構成図をもとにして大きなまとまり毎に重要な段落を見つけ見出しを考える手掛かりとする。 ・「初め」「中」「終わり」の役
		<p><評価> 書かれてある内容や接続語などから文章構成図を考えることができる。 (ノート・発言)</p>	

分	<p>10 本時のまとめをする。</p> <p>11 次時の予告を聞く。</p>	<p>がいとは何かという問いを出し、中の部分でアップとルーズの長所と短所を説明し、終わりの部分でアップかルーズかを選んで伝えるとまとめている。</p> <p>○今日の学習でどんなことが分かりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者は、分かりやすくするために2つのことを対比させて説明している。 ・文章構成図に表すと文章の内容をまとめやすい。 	<p>割に合わせた形式のワークシートを用意し書き込ませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書き手の工夫についての感想も促す。
---	--	--	--

(4) 板書計画

「初め」
アップとルーズとの
ちがいは何か

「中」
アップとルーズの
長所と短所

「終わり」
アップかルーズを
選んで伝える

「アップとルーズで伝える」の文章構成図を考えよう。

アップとルーズで伝える

中谷 日出

(5) ワークシート

	「アップとルーズで伝える」の説明文は、初めの部分で、
	という問いを出し、
	中の部分で
	を説明し、
とまとめている。	終わりの部分で、

9 本時の指導計画 (A組 7/17時)

(1) 本時の目標

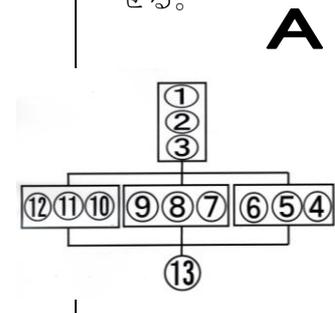
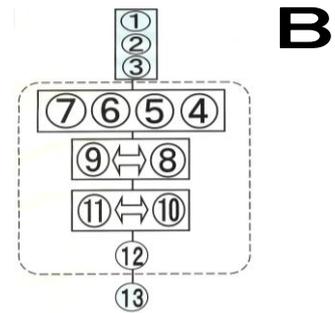
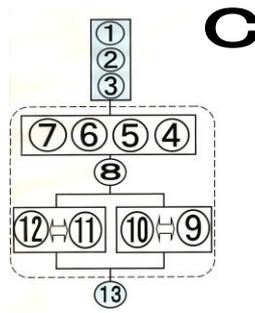
要点や接続語をもとにして文章構成図を考え、段落の役割や文章全体の構成をつかむことができる。

(2) 本時の具体的評価規準

A	B	Cへの支援
要点や接続語をもとにして文章構成図を選び、文章全体の構成をつかむことができるとともに段落相互の関係にも気づくことができる。	要点や接続語をもとにして文章構成図を選び、文章全体の構成をつかむことができる。	前時にまとめた要点の文末や、接続語に着目させ、「中」の部分大きく2つに分けさせる。

(3) 本時の展開

過程	学習活動	○主な発問 ・予想される児童の反応	指導上の留意点
見 通 す 7 分	1 前の学習の想起をする。	○「アップとルーズで伝える」の文章は、どのような構成になりましたか。 ・「中」では、アップとルーズのいいところと悪いところを対比させて説明していた。 ・「終わり」でまとめていた。	・「初め」「中」「終わり」の大きなまとまりを想起させる。 ・文章構成図を見ながら答えさせ、対比の関係についても想起させる。
	2 本時の課題を把握する。 「めだか」の文章は、どんな構成になっているのか文章構成図をもとにして考えよう。	○今日は、「めだか」の説明文が、どのような構成になっているか考えていきます。	・前時で文章構成図から全体の構成をつかんだことを想起させ、まずは構成図を考えてみるよう促す。
深 め る	3 「めだか」の文章構成図としてふさわしいものを3つの中から選ぶ。	○この3つの中で、「めだか」の文章構成図にふさわしいと思うものを選びましょう。選んだわけも書きましょう。	・前時で「初め」「中」「終わり」にわけているので、本時は「中」の部分に絞って考えさせる。
	4 小見出しをつける。	○それぞれのまとまりに小見出しをつけましょう。	



予想される児童の反応

- ・④～⑦は「第一に」などの接続語からひとまとまり。(Aは不適)
- ・⑧と⑨、⑩と⑪は対比の関係ではない。(Bは不適)
- ・⑧は④～⑦をまとめ、⑨～⑫についての紹介をしているつながりである。(Cは適)
- ・⑨と⑩、⑪と⑫は「しかし」などの接続語から対比させながら述べている。(Cは適)

<評価>
根拠をもって、適切な文章構成図を選んでいる。
(ノート)

33分	5 文章構成図をもとに、「めだか」の構成についてまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・てきから身を守る方法 ・自然のきびしさにたえる特別な仕組み ○ワークシートの□に言葉をいれて、文章を完成させましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・つなぎの⑧段落に着目させる。 ・教科書教材のときと同じ形式で文章全体の構成についてまとめる。
	「めだか」の説明文は、初めの部分で めだかはどのようにして身を守っているのかという問いを出し、 中の部分で てきから身を守る方法と自然のきびしさにたえる特別な仕組みを説明し 終わりの部分で めだかは、いろいろな方法でてきから身を守り、自然のきびしさにたえながら生きているとまとめている。		
		<評価> 文章全体の構成を簡潔にまとめている。(ワークシート)	
5分	6 本時の学習についてまとめる。	○今日の学習でわかったことを発表しましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・文章構成図を書くと、文章全体の構成がわかりやすい。 ・つなぎ言葉に目をつけると構成がとらえやすい。 ・対比しながら書くと、わかりやすい。「アップとルーズ」と同じような書き方の工夫をしている。 ・「中」のまとめりは、対比だけではない書き方もあることがわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・要点をまとめた表だけよりも構成が一目でわかるよさにふれさせたい。 ・教科書で学習した対比以外にも段落のつながりには様々あることに気づかせたい。
	7 次時の予告を聞く。	○新聞作りをします。	

(4) 板書計画

「めだか」の説明文は、
初めの部分で
めだかはどのようにして身を守っているのか
という問いを出し、

中の部分で
てきから身を守る方法と
自然のきびしさにたえる特別な仕組み
を説明し

終わりの部分で
めだかは、いろいろな方法でてきから身を守り、
自然のきびしさにたえながら生きている
とまとめている。

⑧・・・つなぎ
てきから身を守る方法
自然のきびしさに
たえる特別な仕組み

ふつうの魚とめだか
←

⑫と⑪
対比
(でも)

⑩と⑨
対比
(しかし)

④と⑦
ひとまとめり

文章構成図

「めだか」の文章は、どんな構成になっ
てるのか文章構成図をもとにして考えよう。

めだか

杉浦 宏